

School of Science

理学部について

不思議に満ちた自然界の法則を追究 世界最先端の研究から新たな知を生み出す



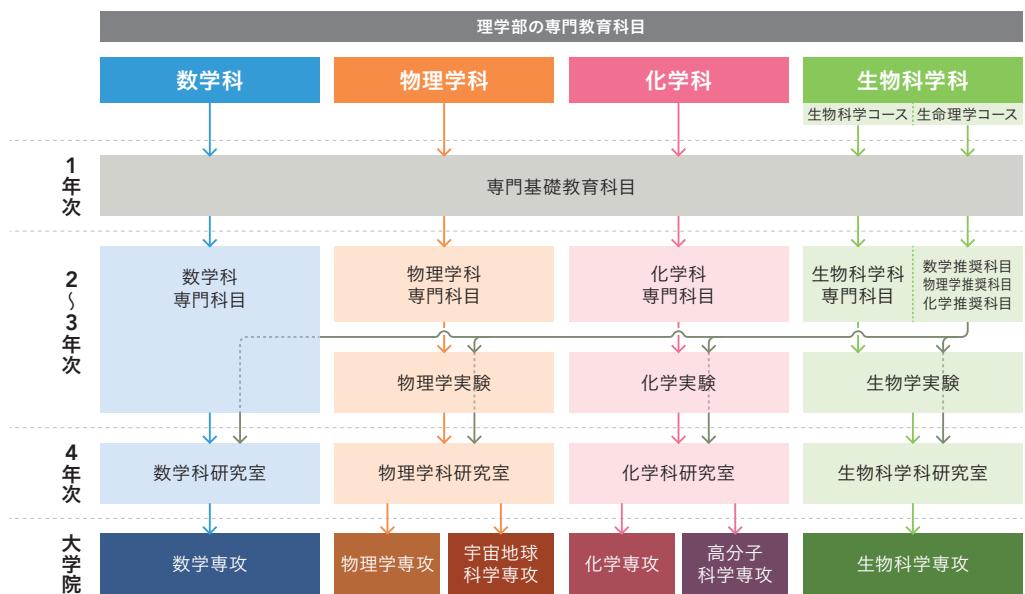
世界は「不思議」に満ちています。「なぜ」「どうして」という素朴な疑問を出発点に、知的好奇心をふくらませながら、まだ誰も知らない謎を解く。これこそが理学です。

学問分野としての理学は、その歴史の深さから、ともすると古臭い学問という印象があるかもしれません。しかし、現在の最先端の科学技術の多くは理学の成果をもとに発展したものであり、現在でも絶えず理学（基礎）から工学（応用）へ、研究テーマの移動が起こっています。純粋な興味から出発した研究成果が、視点を変えると社会に役立つ技術になり得るという例は、枚挙にいとまがありません。その意味で「理学」は全てのサイエンスの源となる「泉」のような存在であると言えます。工学部や基礎工学部との決定的な違いもここにあり、理学部では自然界の法則に迫るべく、研究活動のベクトルは常に“真理”的追求に向けられています。

自然界の「不思議」に目を向け、その謎解きに真剣に取り組むという理学者精神を、伝統と実績ある大阪大学理学部・理学研究科でぜひ育んでください。

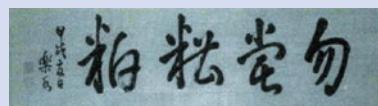
4学科6専攻からなる理学部・理学研究科では、約220名の専任教員（研究者）、約1,200名の学部学生、約900名の大学院生が集っており、世界最先端の研究に取り組む中で、日々新たな知を生み出しています。

自然界の「不思議」を解き明かすにはいろいろな視点が不可欠で、幅広い知識が必要になります。理学部に入学すると、数学科、物理学科、化学科、生物科学科に分かれ教育を受けますが、最初の1年間は、科学のどの分野に進むにも必要となる数学、物理学、化学、生物学、地学などの基礎を身につけるための専門基礎教育科目を中心に学習します。2～3年生では、各学科の専門分野を基礎からしっかりと学び、4年生の「卒業研究」では、各分野を代表する研究者の指導を受けながら、研究の最先端に触れることになります。また、「なぜだろう」と好奇心を持ち、自ら学ぼうとする意欲的な人の能力をさらに伸ばす理学部独自の教育プログラム（理数オナープログラム）も実施しています。



糟粕を嘗むる勿れ

理学部の歴史は、昭和6年の大阪帝国大学発足と同時に始まります。当初より理学部が創設された背景には、当時、日本の産業の中核にあった大阪で、模倣的な工業から脱皮するには「基礎的純正理化」が重要であるという先見的認識と危機感がありました。以来、長岡半太郎初代総長（土星型原子模型を提唱したこと有名な物理学者）の「糟粕を嘗むる勿れ」とのモットーを精神的規範に、誰にもまねのできない独創的研究を数多く生み出してきました。



「嘗むる勿れ」糟粕(そはく)を嘗(な)むる勿(なか)れと読み、“つねに創造的であれ”といった意味である。

キーワード
で見る
理学部